

講座名（専門科目名）	治療情報学講座 病院薬剤学	教授氏名	奥田 真弘
学生への指導方針	自由な発想を尊重し、基礎研究と臨床研究を組合わせて展開できるように指導します		
学生に対する要望	薬物療法の個人差の要因を解明し、最適な薬物療法の実現に興味のある学生を求めます		
問 合 せ 先	(Tel) 06-6879-6000 (Email) okudam@hp-drug.med.osaka-u.ac.jp	担 当 者	奥田 真弘
その他出願にあたっての注意事項等	特記事項なし		

医薬品は、有効性や安全性等に関するさまざまな試験結果をもとに薬事承認され、医療や健康福祉に用いられますが、その効果には個人差があり、生体への負担を伴うことから、個々に応じた管理が求められます。投与量一つをとってみても” One size fits all ”というわけにはいかず、薬物の体内動態や投与後の反応を事前情報に基づいて予測したり、投与後にモニタリングすることで、薬物投与の適切性を評価したり、変更を検討することが必要です。薬事承認までに得られる情報は限定的であることから、市販後も不足する情報を収集したり、新たな使用法を確立することはとても重要です。

昨今、薬剤師はチーム医療の要として、専門的立場から薬物療法の適正化に関与しています。日々直面するクリニカル・クエスチョンに着想し、リサーチ・クエスチョンとして研究展開することで、臨床の切実な問題に対するエビデンスを構築することはとても重要です。

病院薬剤学分野の研究室は、大阪大学医学部附属病院薬剤部内にあり、医薬品の有効性・安全性確保と適正使用推進のため、薬物動態学、細胞生物学、疫学（症例対照・コホート）を基盤として、主に以下の臨床研究と基礎研究を目指しています。

薬学部出身者や薬剤師以外の方も広く受け入れています。私たちと一緒に最先端の臨床薬学研究に取り組んでみませんか？

- 1) 薬物動態学／薬力学的解析に基づくドラッグリポジショニング研究
- 2) 薬物の血中濃度モニタリングと個別投与設計
- 3) 薬効・副作用バイオマーカーに基づく新たな薬物治療戦略の開発
- 4) 高品質な新規院内製剤の開発
- 5) 薬剤業務の質的・量的評価と医療における薬剤師の役割

